

〔資料〕

## 活動評価方法の開発に向けた保健師活動評価に関する文献の検討

種村 真衣<sup>1)</sup> 松下 光子<sup>1)</sup> 大川 眞智子<sup>2)</sup> 山田 洋子<sup>1)</sup> 大井 靖子<sup>1)</sup>Review of Evaluation for Public Health Nursing Practices Aimed  
at Development of Practices Evaluation MethodMai Tanemura<sup>1)</sup>, Mitsuko Matsusita<sup>1)</sup>, Machiko Ohkawa<sup>2)</sup>, Yoko Yamada<sup>1)</sup>, and Yasuko Ohi<sup>1)</sup>

## I. 調査目的

筆者らは、市町村保健師が日常活動の中で実施でき、その後の活動の充実や改善と保健師の実践能力向上につながる活動評価方法を開発することを目指している。開発しようとする評価方法には、複数の保健事業を組み合わせる地域健康課題への対応を基盤とする活動評価、看護活動であり行政活動である保健師活動の評価、保健師が活動する際の思考過程を支援する評価といった要素を含むことを目指している。

保健師活動の評価に関しては、その必要性は指摘されている。しかし、評価は、成果を評価する、方法を評価する等、視点や側面がさまざまあり、評価が困難な現状である。保健師基礎教育で教科書として使用されている文献の保健師活動評価の内容をみても、保健師の能力を問うもの<sup>1)</sup>もあれば問わないものもある、また成果として地域の健康レベルまで明確に示しているもの<sup>2)</sup>もあれば示していないものもある等、評価の項目が少しずつ異なっており、評価の一定の方法が確立しているとは言えない状況にある。

そこで、わが国の保健師活動の評価に関する文献を調べ整理し、保健師活動評価の実際を確認する。また、市町村保健師活動の評価方法の開発に向け、筆者らが開発を目指す評価方法の位置づけや特徴について検討することを目的とする。

## II. 方法

## 1. 文献の抽出

保健師活動評価に関する文献について、1998年～2011年までの文献を調べた。この期間としたのは、保健師活動評価方法の開発に取り組み始めた2008年の時点でまず過去10年を検索し、取り組みが進んだ2011年にその後の文献を追加したためである。文献の抽出方法は、医学中央雑誌を用いて検索を行った。検索の期間は、1998年～2008年の文献について、2008年9月20日に検索した。その後、2008年～2011年までの文献について、2011年10月13日に検索した。検索語は、いずれの検索も、評価×看護×保健師として、検索語のみを入力し、Basicモードで実施した。検索の結果、2008年に行った検索では332文献、2011年に行った検索では191文献が抽出された。

## 2. 分析方法

分析方法は、1998年～2008年の検索で抽出した全文献を、まず論文タイトルから分類した。分類は、保健師の基礎教育・現任教育の評価に関するもの、援助方法・活動方法・援助対象者に関するもの、保健師活動における評価・測定に関するもの、保健師の役割・機能・能力に関するもの、看護および看護の現状に関するもの、の5項目となった。

その中から、保健師活動における評価・測定に関するものに該当した文献を、再度、文献のタイトルから、実施した活動・事業の評価、保健事業・地域での活動を評価する方法、援助対象者をアセスメントする測定用具・

1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学領域 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 看護研究センター Nursing Collaboration Center, Gifu College of Nursing

方法、地域の現状をアセスメントする方法、その他保健師活動評価に関すること、の5項目に分類した。

2008年～2011年の検索で抽出した文献は、1998年～2008年までの文献の分析結果を枠組みとして、分類を行い、該当しない場合は、分類項目を追加することとしたが、新たな分類項目はなかった。

これらの分析後、2008年の文献が2回目の検索で重複しているため、1998年～2008年の検索で得た2008年の文献を2008年～2011年の分類に含めることとした。そして、保健師活動評価方法を重視し、保健事業・地域での活動を評価する方法とその他保健師活動評価に関する分類ではすべての文献を取り寄せ、それ以外の分類では、原著論文に限定して取り寄せた。その結果、取り寄せた文献は1998年～2007年は46文献、2008年～2011年は26文献、計72文献であった。72文献を読み、内容について確認した。そして、各文献において評価の対象は何かという視点から分類し、さらに、評価方法に特徴があるものについては、どのように評価しているかという視点で区別した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 抽出された全文献の分類結果

医学中央雑誌を用いて検索し、抽出した全文献について、タイトルから分類したところ、1998年～2008年の332件と2008年～2011年の191件は、表1のように分類できた。

保健師の基礎教育・現任教育の評価に関するものは、101件(30.4%)と48件(25.1%)、援助方法・活動方法・援助対象者に関するものは、95件(28.6%)と59件(30.9%)、保健師活動における評価・測定に関するものは、80件(24.1%)と29件(15.2%)、保健師の役割・機能・能力に関するものは、45件(13.6%)と41件(21.5%)、看護および看護の現状に関するものは、11件(3.3%)と14件(7.3%)であった。

#### 2. 保健師活動における評価・測定に関するものについての分類結果

結果1で、保健師活動における評価・測定に関するものについて該当した文献は、1998年～2007年、2008年～2011年で区分すると、1998年～2007年74件と、2008年～2011年の29件になった。それらを評価の何を検討してい

る文献かをタイトルから分類し、表2のように分けることができた。実施した活動・事業の評価は、36件(48.6%)と11件(38.1%)、保健事業・地域での活動を評価する方法は、18件(24.3%)と10件(35.6%)、援助対象者をアセスメントする方法は、12件(16.2%)と2件(7.8%)、地域の現状をアセスメントする方法は、3件(4.1%)と1件(3.6%)、その他保健師活動評価に関することは5件(6.8%)と5件(14.9%)であった。

取り寄せた文献の内訳は、1998年～2007年と2008年～2011年、両者の計でみると、実施した活動・事業の評価は15件と9件、計24件、保健事業・地域での活動を評価する方法は18件と10件、計28件、援助対象者をアセスメントする方法は6件と1件、計7件、地域の現状をアセスメントする方法は2件と1件、計3件その他保健師活動評価に関することは5件と5件、計10件であった。

#### 3. 取り寄せた72文献の分類結果

取り寄せた72件の文献の内容から、評価の対象は何か、どのように評価しているかという視点で分類した結果は表3のとおりである。分類項目について、大分類から順に【 】,《 》,〈 〉の括弧で示した。

取り寄せた72文献は、【援助者側の活動に関すること】40件と、【援助対象に関すること】12件、【その他】20件の大きく3つに分類できた。【援助者側の活動に関すること】は、援助者側の活動を評価の対象としているもので、40件のうち《事業》が22件であった。これらはさらに〈主に個人の変化から成果を評価しているもの〉13件、〈事業の成果だけでなく、実施方法も評価対象にしているもの〉6件、〈事業の中に含まれた複数の目的を明確にして、どのような地域の変化がもたらされたかという視点で評価しているもの〉3件、に区分できた。さらに、【援助者側の活動に関すること】は、《特定の健康課題への取り組み》4件、《援助方法》4件、《個別援助の方法》6件、《保健師の自己評価》4件であった。また【援助対象に関すること】は、援助対象を評価の対象としているもので、12件は、《個人の状態を判断するもの》6件、《地域の状態を判断するもの》6件であった。【その他】は援助者側の活動と援助対象以外のものを評価の対象としているものや、活動評価への保健師の認識や方法等評価の対象とは何かで分類できなかったもので、20件は、《評価に関する保健師の認識》4件、《行政評価の視点か

表1 抽出した全文献の分類結果

分類項目	文献数(%)	
	1998年～2008年	2008年～2011年
1. 保健師の基礎教育・現任教育の評価に関するもの	101 (30.4)	48 (25.1)
2. 援助方法・活動方法・援助対象者に関するもの	95 (28.6)	59 (30.9)
3. 保健師活動における評価・測定に関するもの	80 (24.1)	29 (15.2)
4. 保健師の役割・機能・能力に関するもの	45 (13.6)	41 (21.5)
5. 看護および看護の現状に関するもの	11 (3.3)	14 (7.3)
合計	332 (100.0)	191 (100.0)

表2 保健師活動における評価・測定に関するものについての分類

分類項目	文献数(%)				
	1998年～2007年		2008年～2011年		1998年～2011年
	文献数	取り寄せた文献数	文献数	取り寄せた文献数	取り寄せた文献数
1)実施した活動・事業の評価	36 (48.6)	15	11 (38.1)	9	24
2)保健事業・地域での活動を評価する方法	18 (24.3)	18	10 (35.6)	10	28
3)援助対象者をアセスメントする方法	12 (16.2)	6	2 (7.8)	1	7
4)地域の現状をアセスメントする方法	3 (4.1)	2	1 (3.6)	1	3
5)その他保健師活動評価に関すること	5 (6.8)	5	5 (14.9)	5	10
合計	74 (100.0)	46	29 (100.0)	26	72

ら見た保健師活動評価」5件、「保健活動の展開からの評価」2件、「保健師活動の経済評価」2件、「市町村合併による保健師活動の影響評価」3件、「その他」4件であった。

以下に、分類項目ごとにどのような文献が該当したかを説明する。

#### 1) 援助者側の活動に関すること

##### (1) 事業

《事業》の〈主に個人の変化から成果を評価しているもの〉は、特定保健指導であれば参加者の体重や腹囲の変化<sup>3)</sup>、虐待予防教室であれば健康面や悩みの解消の程度<sup>4)</sup>等、実施前後で参加者一人一人の変化をみて、個人の変化から事業を評価していた。

〈事業の成果だけでなく、実施方法も評価の対象になっているもの〉は、介護予防事業評価指標の普及に向け、事業のプロセスの評価としてのプロセス評価、事業の実施状況としてのアウトプット評価、事業の効果評価としてのアウトカム評価の3段階の評価を設定し、介護予防事業評価プログラムの開発に取り組んだもの<sup>5)</sup>等、事業の成果だけではなく事業の方法、プロセスについても評価していた。

〈事業の中に含まれた複数の目的を明確にして、どのような地域の変化がもたらされたかという視点で評価し

ているもの〉には、地域づくりの実践とその評価について書かれた文献があった<sup>6)</sup>。活動の評価については、特定の地域における保健師活動のあり方という考え方を整理し、「介護予防の知識啓発」と「地域づくり」という複数の目的を同等にとらえて、その考え方に沿って活動を評価しながら展開し、地域にどのような変化がもたらされたのかを経年的に評価していた。他には、公衆衛生看護活動における評価の現状と課題に関する文献<sup>7)</sup>において、住民の健康課題を改善するための地域医療整備にどのように取り組むかの例示があった。具体的には、地域で糖尿病予防に取り組むときに、まず地域の現状を分析し、健康課題の解決に向け、目標を明確にする。そして、事業計画を立てて取り組んだ結果について、プロセス評価、実施評価、成果評価から評価していた。

##### (2) 特定の健康課題への取り組み

《特定の健康課題への取り組み》は、明確な健康課題に着目し、その健康課題が解決されたか、変化をみている文献であった<sup>8)</sup>。特定の地域において高齢者の認知症を減らす目的で実施してきた孤立や引きこもりの予防、家庭訪問や集団検診などの保健師活動が認知症の危険因子にどのような効果がもたらされたかを検討していた。地域の変化は認知症の有病率の推移によって評価しており、保健師活動については実績のみ記載されていた。他

表3 取り寄せた72文献の分類結果

分類項目		文献数	文献タイトル	
1. 援助者側の活動に関すること	1) 事業	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導のプログラム</li> <li>・虐待予防親子教室の事業に取り組んで</li> <li>・特定保健指導での実施を想定した肥満改善プログラムの評価～学校法人職員を対象とした取り組み～</li> <li>・大阪市の結核治療成功要因の分析によるDOTS事業の評価</li> <li>・総合病院における虐待への取り組み-虐待予防連絡会の活動を評価して-</li> <li>・三田市におけるA型機能訓練事業の活動報告 アンケート調査から事業効果と作業療法士の役割を考える</li> <li>・住宅改修サービス事業は満足度だけで評価できるのか!? 改修内容の妥当性を高める評価方法の課題の検討</li> <li>・保健師・助産師による新生児訪問指導事業の評価 育児不安の軽減から</li> <li>・市町村が行う機能訓練教室参加者の社会性拡大に関する検討 主観的ソーシャルスキルと社会的交流を視点とした評価より</li> <li>・参加者中心型糖尿病予防教室を目指して-スタッフの意識変容-</li> <li>・「まちの保健室」における地域住民のニーズと活動評価</li> <li>・要介護状態の予防を目的とした高齢者向け保健指導プログラムの開発と評価</li> <li>・老人保健法に基づく機能訓練事業の意義と保健師の役割の再検討</li> </ul>	
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防事業評価指標の普及に向けて</li> <li>・特集の本健康教育学会「どう取り組むか!特定健診・特定保健指導」第2弾</li> <li>・保健師による主観的母子健診システム評価</li> <li>・特定保健指導におけるアカウントビリティを果たす評価方法開発の試み</li> <li>・チェックリストをアレンジして老人保健事業を評価する</li> <li>・母子保健事業の展開プロセスにおける評価</li> </ul>	
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域づくり」のプロになる 台東区の挑戦から 地域づくりの方法論 台東区の保健師活動の枠組み作成、地域づくりの実践、評価</li> <li>・地域づくりの方法論 第2報 台東区の保健師活動の枠組みに沿った地域づくり活動の評価</li> <li>・特集: 地域保健活動における評価の現状と課題 公衆衛生看護活動における評価の現状と課題</li> </ul>	
		小計	22	
		2) 特定の健康課題への取り組み	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H村における老年期認知症の有病率9年間の推移-保健活動のもたらす効果-</li> <li>・100人未満の小規模事業所における労働衛生管理体制の導入とその評価</li> <li>・小規模作業所におけるメンタルヘルス対策の導入とその評価</li> <li>・ヘルスプロモーションに向けた産業保健師の働きかけの評価に関する研究</li> </ul>
		3) 援助方法	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨粗鬆症予防ガイドラインの有効性評価から見たエビデンスコミュニケーション</li> <li>・地区診断に基づく市町村支援とその評価</li> <li>・保健所の技術指導・援助に対する市町村の評価と期待</li> <li>・幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発-その2育児機能アセスメントツール I の有用性の検討-</li> </ul>
		4) 個別援助の方法	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師による子ども虐待が起こっている家庭への支援 事例検討と支援評価の試み</li> <li>・精神保健福祉相談業務の評価に関する研究-事例検討による質的臨床研究の進展-</li> <li>・地域精神保健活動における保健師の活動評価に関する研究-利用者の生活支援と連携に焦点をあてて-</li> <li>・ALS在宅療養者への意思伝達装置を用いたコミュニケーション支援の評価</li> <li>・DOTSカンファレンスの評価と課題 退院後の服薬継続が困難な2事例について</li> <li>・Relationship between Low Evaluation by Recipients under 40 Years old of Health Interviews by Occupational Health Nurses and Deterioration in Health Checkup Results over One Year.</li> </ul>
		5) 保健師の自己評価	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター保健師の活動に係る自己評価項目の試案</li> <li>・住民組織メンバーの活動意欲向上に関する保健師の支援構造と自己評価</li> <li>・大阪府内の訪問看護職の連携の自己評価に関連する要因</li> <li>・地域保健と学校保健の連携評価を規定する連携影響要因の検討</li> </ul>
		小計	40	
	2. 援助対象に関すること	1) 個人の状態を判断する	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳6か月児健康診査で保健師が「不適切な養育」と捉えた母親の状況</li> <li>・基本健診で実施可能な全身持久力測定方法の検証</li> <li>・高齢者の全身持久力を評価するための3分間足踏み歩行についての考察</li> <li>・乳幼児健康診査に対する母親の満足感を測定する質問項目の検討</li> <li>・予防訪問アセスメント表の開発</li> <li>・介護予防アセスメントツールの開発</li> </ul>
2) 地域の状態を判断する		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域高齢者保健福祉活動のための社会的側面・行動的側面の看護アセスメント項目の検討</li> <li>・保健師によるソーシャルキャピタルの地区評価</li> <li>・医療費分析を通じて見えてきた問題点と評価の視点</li> <li>・コミュニティ・エンパワメントの構成概念-保健専門職による評価のための「望ましい状態」の項目収集-</li> <li>・神経難病における地域ケアシステムおよび療養環境の評価方法の構築に関する研究</li> <li>・グループ支援におけるアセスメントと評価</li> </ul>	
小計		12		
3) その他		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師活動の評価に関する認識とスキルに関する研究</li> <li>・具体的な評価指標を用いた保健事業の評価に対する保健師の意見</li> <li>・保健事業の評価指標設定の困難感と保健師の属性による比較検討</li> <li>・市町村保健師に有用な活動評価の方法</li> </ul>	
3. その他	1) 評価に関する保健師の認識	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師活動の評価に関する認識とスキルに関する研究</li> <li>・具体的な評価指標を用いた保健事業の評価に対する保健師の意見</li> <li>・保健事業の評価指標設定の困難感と保健師の属性による比較検討</li> <li>・市町村保健師に有用な活動評価の方法</li> </ul>	
	2) 行政評価の視点から見た保健師活動評価	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政評価の視点から見た保健事業の評価方法について</li> <li>・こう書けばわかる保健師記録 行政評価から見た記録の活かし方</li> <li>・行政評価シート活用による保健師活動評価の標準化に関する研究</li> <li>・保健師活動の評価はなぜ必要なのか?</li> <li>・行政評価の視点から見た保健事業の評価方法</li> </ul>	
	3) 保健活動の展開からの評価	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動展開過程見直しプログラムの開発(第2報)</li> <li>・保健活動展開過程見直しプログラムの開発-保健事業評価シートの作成と試用結果-</li> </ul>	
	4) 保健師活動の経済評価	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定の統計学 保健師が行う活動の評価</li> <li>・保健活動の経済的評価</li> </ul>	
	5) 市町村合併による保健師活動の影響評価	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村保健(師)活動における合併の影響評価と今後の課題</li> <li>・市町村合併が保健(師)活動に及ぼす影響の評価と今後の課題</li> <li>・市町村合併に伴う地域住民の保健医療サービスへの評価</li> </ul>	
	6) その他	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすればできる保健師の拡充 小鹿野町のケースを振り返る 住民ニーズに確実に応えることで保健師活動は評価される</li> <li>・事業所におけるメンタルヘルス事例の実態とケアの実施状況</li> <li>・保健師活動の評価</li> <li>・栄養指導は科学的に選択・評価されているか～指導効果評価法入門～</li> </ul>	
小計	20			
合計	72			

には、労働衛生管理体制を導入していなかった事業所における労働衛生管理体制の導入と充実の取り組みの成果を評価したもの<sup>9)</sup>等、特定の明確な健康課題を解決するための体制を導入後、その健康課題にどのような変化をもたらされたのか評価しているものがあった。

### (3) 援助方法

《援助方法》は、骨粗鬆症予防における個々の対策と閉経後女性、高齢者等、標的集団ごとに勧告の強さが示してある骨粗鬆症予防ガイドラインを活用することによって、市町村の対策がエビデンスに基づく対策に改善されたかを調査するもの<sup>10)</sup>等であった。

### (4) 個別援助の方法

《個別援助の方法》は、家族生活力量モデル（家族が健康生活を営む労力）を用いて子ども虐待事例の事例検討会を実施し、その結果、効果的な支援内容を評価しているもの<sup>11)</sup>等、個別援助の関わりについて評価していた。

### (5) 保健師の自己評価

《保健師の自己評価》は、地域包括支援センターの保健師が地域包括支援センターの支援機能を強化するため、保健師活動自己評価項目の試案を作成し、実用化に向けて検証されたもの<sup>12)</sup>等、保健師を対象に調査し、保健師の自己評価によって事業や活動の評価をしている文献を分類した。

## 2) 援助対象に関すること

### (1) 個人の状態を判断する

《個人の状態を判断する》は、1歳6か月児健診で保健師が「不適切な養育」と判断した母親の状況について質問調査票を作成したもの<sup>13)</sup>等、援助対象者の状況を判断するものであった。

### (2) 地域の状態を判断する

《地域の状態を判断する》は、高齢者保健福祉活動のための地域看護のアセスメント項目を明らかにする研究<sup>14)</sup>等、一定地域の状況を判断するためのものであった。

### 3) その他

#### (1) 評価に関する保健師の認識

《評価に関する保健師の認識》は、保健師の日常業務の中での評価に対する認識と保健師のスキルの現状を把握し、保健師自身が評価できるようにするための課題を明らかにするもの<sup>15)</sup>、保健師に調査をし、保健事業を具体的な指標を用いて評価することに対する保健師の考え

をみるもの<sup>16)</sup>等があった。

#### (2) 行政評価の視点から見た保健師活動評価

《行政評価の視点から見た保健師活動評価》は、保健師が保健事業を効果的・効率的に企画・評価し、他職種や地域住民と情報共有できるための事業計画書・評価シートを作成し、そのシートを活用して、評価について検討したものがあった<sup>17)</sup>。評価シートについては、他職種や住民と共有できるシートにする必要があることが書かれていた。また、保健師の記録について書かれた文献<sup>18)</sup>では、保健師活動評価は行政活動としての評価と専門職としての評価の2つ側面があり、行政評価の一環としての保健師活動評価の必要性について述べられていた。また、保健師活動評価の標準化に向け、保健師の行政評価に対する意識、保健師の行政評価の取組状況について調べたもの<sup>19)</sup>があった。

#### (3) 保健活動の展開からの評価

《保健活動の展開からの評価》は、保健師活動の展開過程において保健師として求められる能力を獲得できるようにOn the Job Training (OJT) で活用できる事業評価の視点や保健師活動を明確にする評価シートを開発し、活用、普及を図るもの<sup>20)</sup>があった。

#### (4) 保健師活動の経済評価

《保健師活動の経済評価》は、保健師活動を貨幣価値に換算するという経済的評価の必要性を述べているもの<sup>21)</sup>等、経済評価の視点から述べたものであった。

#### (5) 市町村合併による保健師活動の影響評価

《市町村合併による保健師活動の影響評価》は、合併市町村と非合併市町村を人口規模別に分析し、市町村合併が保健師活動に及ぼす影響の評価と課題について研究したもの<sup>22)</sup>があった。

#### (6) その他

《その他》には、ある地域の保健師の増員の経過を紹介したもの<sup>23)</sup>等、実施したことを紹介している文献が該当した。

## IV. 考察

保健師活動評価の取り組み状況について確認し、さらに筆者らが開発しようとしている評価における3つの要素について検討する。

## 1. 保健師活動評価の取組み状況

結果2に示したように、保健師活動における評価・測定に関するものは、実施した活動・事業の評価、保健事業・地域での活動を評価する方法、援助対象者をアセスメントする方法等があった。

該当した文献は、1998年～2007年は実施した活動・事業の評価に関する文献は48.6%と半数近くあった。2008年～2011年では、実施した活動・事業の評価に関する文献が38.1%、保健事業・地域での活動を評価する方法は34.6%あり、ほぼ同じ割合になっていた。また、その他保健師活動評価に関するものは6.8%から17.3%に増加していることが確認できた。このことから、実際に実施した活動や事業の評価と同じように、活動や事業の評価の方法についても検討されるようになったことが確認できた。

## 2. 複数の保健事業を組み合わせて行う地域の健康課題への対応を基盤とする活動評価

結果3で、〈事業の評価の中には、主に個人の変化から成果を見るものだけでなく、複数の目的を同等にみているもの、地域の変化がもたらされているかという視点で評価されているもの〉の中に、保健師活動のあり方を作成し、そのあり方を基に事業を実施し評価しているものがあった<sup>24)</sup>。事業は、介護予防の健康課題を解決するものが取り組まれており、「介護予防の知識啓発」と介護予防をきっかけとした「地域づくり」という2つの視点で展開され、その中で、地域の変化について評価していた。保健師活動のあり方を明確にし、地域の変化をみて事業を展開し、評価する過程は、筆者らの目指している評価方法と一致している。しかし、事業を実施する前に、その地域にどのような健康課題があり、その健康課題と照らし合わせて事業を実施しているのかという点は、不明確であった。地域の変化について評価するときには、保健師が捉えるその地域の健康課題を把握し、事業を展開した結果、その地域の健康課題がどのように変化したか評価する必要があると考える。

また、ある村の老年期認知症の有病率の推移から保健活動のもたらす効果について書かれた文献<sup>25)</sup>では、家庭訪問や集団検診等の保健師活動が認知症の危険因子にどのような効果もたらされたか検討していた。保健師活動の健康教育や家庭訪問の成果については実績が挙げら

れていたが、評価としては認知症の有病率で評価していた。認知症予防という健康課題とその取り組みについて述べられていたが、筆者らの目指している評価方法は、複数の保健事業を組み合わせて行う地域の健康課題への対応を基盤とする活動評価である。この文献であれば、評価の視点としては、認知症の有病率だけではなく、健康教育や家庭訪問等の保健師活動と併せて評価できるものを開発したいと考える。

## 3. 看護活動であり行政活動である保健師活動の評価の課題

保健師活動評価については、評価シートを作成したことを報告したものが<sup>26)</sup>、筆者らの開発する評価方法と同様に、評価シートを活用して保健師活動を評価していることが確認できた。しかし、どのような評価の視点で作成されたシートかは分からなかった。

他には、保健師活動評価の標準化に向け、保健師の行政評価に対する意識や行政評価の取り組み状況について検討したもの<sup>27)</sup>があった。内容から、行政評価の視点を理解したい、行政評価シートを用いて事業評価できるようになりたいと、保健師の行政評価への関心の高さが伺えた。しかし、行政活動評価と保健師活動評価の関連について検討されているかは確認できなかった。ひとつの保健事業を取り上げたときに、保健師活動は、行政の中で行う活動であるため、評価するシートは行政評価と保健師活動評価の両方ができる視点が大切である。

また、住民の健康課題（糖尿病予防）を改善するための地域医療体制整備について書かれた文献<sup>28)</sup>では、地域の現状を分析し、事業を評価していた。計画を立てて事業に取り組んだ結果、プロセス評価、実施評価、成果評価の視点を用いて事業を評価していた。しかし、保健師活動は、住民との協働や自主活動支援など事業化に至る前後の取り組みも多く、法的根拠に基づき予算措置された事業だけを評価していくと地域全体の評価には不十分になる場合があると、述べられていた。予算措置された事業以外の保健師活動についても評価できるようにすることが大切であると考ええる。

## 4. 保健師が活動する際の思考過程を支援する評価方法

保健師が活動をする際には、計画、実施、評価という看護過程が展開されている。これは保健師活動の思考過程である。この過程を展開することによって、地域の健

康課題を明確にして保健師活動に取り組むことができる。保健師が活動する際の思考過程を支援するものとして、保健師活動において保健師が大切にしていることを表現したものを作成し、そのあり方で保健師活動を毎年継続して評価をしていた<sup>29)</sup>。このように、保健師活動の目指す地域の姿を明確にすることで、何を重視して活動を取り組めば良いかがわかり、事業の目標を立て、方法を展開するときの看護過程の思考を助けることができると考える。しかし、他の文献からは、どのような思考過程があったのか、保健師の思考過程を支援する評価については不明確であった。また、結果3の3)援助方法という視点から見た文献をみても、保健師活動の思考過程については不明確であった。保健師活動の思考過程を支援するためには、保健師活動の中で展開している看護過程を整理する必要がある。そして、保健師の目指す地域の姿を明確にし、保健師が取り組むべき地域の健康課題が解決できるよう、看護過程を展開させることができる評価方法の検討が必要である。

(本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C)課題番号23593388)の助成を受けたものである。)

## 文献

- 1) 中西睦子, 井伊久美子, 平野かよ子: 実践地域看護学, 建帛社; 135, 2010.
- 2) 荒賀直子, 後閑容子: 公衆衛生看護学.jp, 第3版, インターメディカル; 130, 2011.
- 3) 伊地知久美子, 小島真二, 石川奈美, 他: 特定保健指導での実施を想定した肥満改善プログラムの評価 学校法人職員を対象とした取り組み, 医学と生物学, 152(2); 66-72, 2008.
- 4) 田中容美: 【事例で学ぶ!現場で調査・研究を行うためのコツ】事業の効果を知りたいときの調査・研究 虐待予防親子教室の事業評価に取り組んで,保健師ジャーナル, 64(6); 504-509, 2008.
- 5) 栗盛須雅子, 栗田仁子, 大田仁史, 他: 介護予防事業評価指標の普及に向けて 茨城県における評価プログラムの開発と実用化, 保健師ジャーナル, 67(4); 308-316, 2011.
- 6) 山田圭子, 米津由美, 椎橋由加里, 他: 【「地域づくり」のプロになる 台東区の挑戦から】地域づくりの方法論 台東区の保健師活動の枠組み作成、地域づくりの実践、評価、保健師ジャーナル, 66(3); 217-235, 2010.
- 7) 中板育美: 公衆衛生看護活動における評価の現状と課題, 保健医療科学, 58(4); 349-354, 2009.
- 8) 志波充部, 弓庭喜美子, 山本明弘, 他: H村における老年期認知症の有病率9年間の推移 保健活動のもたらす効果, 和歌山医学, 58(3); 121-125, 2007.
- 9) 有吉浩美: 100人未満の小規模事業所における労働衛生管理体制の導入とその評価, 日本健康医学会雑誌, 16(4); 15-20, 2008.
- 10) 梶田悦子: 骨粗鬆症予防ガイドラインの有効性評価からみたエビデンスコミュニケーション, 地域保健, 42(5); 50-56, 2011.
- 11) 林恵子: 保健師による子ども虐待が起こっている家族への支援 事例検討と支援評価の取り組み, 家族看護, 8(2); 104-109, 2010.
- 12) 善生まり子: 地域包括支援センター保健師の活動に係る自己評価項目の試案, 日本看護研究学会, 34(3); 423, 2011.
- 13) 松原三智子, 和泉比佐子: 1歳6ヶ月児健康診査で保健師が「不適切な養育」と捉えた母親の状況 調査票開発に向けた項目作成のプロセス, 北海道公衆衛生学雑誌, 21(2); 141-150, 2008.
- 14) 大野昌美, 佐伯和子, 織田初江, 他: 地域高齢者保健福祉活動のための社会的側面および行動的側面の看護アセスメント項目の検討, 日本地域看護学会誌, 9(1); 19-25, 2006.
- 15) 辻下淳子, 守田孝恵, 山崎秀夫, 他: 保健師活動の評価に対する認識とスキルに関する研究, 日本公衆衛生学会総会抄録集, 66; 381, 2007.
- 16) 右田周平, 工藤啓: 具体的な指標を用いた保健事業の評価に対する保健師の意見, 東北公衆衛生学会講演集, 52; 43, 2003.
- 17) 大野佳子, 川邊智子, 財部マチ子, 他: 行政評価の視点からみた保健事業の評価方法について, 日本公衆衛生学会総会抄録集, 68; 598, 2009.
- 18) 柳澤尚代, 長江弘子: こう書けばわかる保健婦記録 行政評価から見た記録の活かし方, 保健婦雑誌, 59(3); 260-265, 2003.
- 19) 大野佳子, 原田ケイ子, 永山充代, 他: 行政評価シート活用による保健師活動評価の標準化に関する研究, 日本公衆衛生学会総会抄録集, 65; 453, 2006.

- 20) 砂山圭子, 斉藤しのぶ, 高岸久江, 他: 保健活動展開過程  
見直しプログラムの開発(第2報), 日本公衆衛生学会総会抄  
録集, 65 ; 536, 2006.
- 21) 松原望: 意思決定の統計学 保健師が行う活動の評価, 保  
健師ジャーナル, 60(12) ; 1224-1227, 2004.
- 22) 烏帽子田彰: 市町村保健(師)における合併の影響評価と今  
後の課題」報告書の概要, 地域保健, 39(3) ; 64-67, 2008.
- 23) 原口章子: どうすればできる保健婦の拡充 小鹿野町の  
ケースを振り返る 住民ニーズに確実に応えることで保健  
婦活動は評価される, 保健婦雑誌, 57(11) ; 876-879, 2001.
- 24) 前掲6) .
- 25) 前掲8).
- 26) 前掲19).
- 27) 前掲17).
- 28) 前掲7).
- 29) 前掲6).

(受稿日 平成24年 9月20日)

(採用日 平成25年 1月17日)